

在宅療養の実現性について

現状及び課題

- 脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期の療養が必要になった場合、「自宅で療養を続けたい」との回答は32.2%であり、「そう思わない」との回答は38.2%
- 「自宅で療養を続けたい」との回答のうち、自宅での療養は「可能だと思う」との回答は26.8%であり、「難しいと思う」との回答は54.7%
- 「自宅で療養を続けたいと思わない」または「自宅での療養は難しい」との回答のうち、その理由として「在宅医療や在宅介護でどのようなケアを受けられるかわからない」との回答が26.5%

(健康と保健医療に関する世論調査(平成29年3月))



- 在宅療養そのものの認知度が低い。
- 在宅療養に関する普及啓発が十分でない。